

筑波大学新聞

第347号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

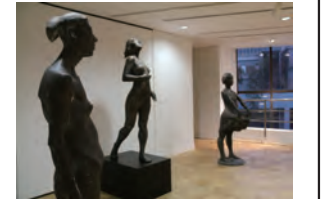
E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

『いだてん』特別展開催 **2**

蠟型ブロンズ彫刻展 **5**



ブロンズ彫刻の展示

女子バレー 9年ぶり優勝 **8**

バスケット 男女共にベスト4 **9**

つくば市 プラゴミ分別収集 **10**

自転車盗難被害減らず **11**

ミニ特集 **3**

退職教員4人に聞く
教員人生の軌跡

特集 **6,7**

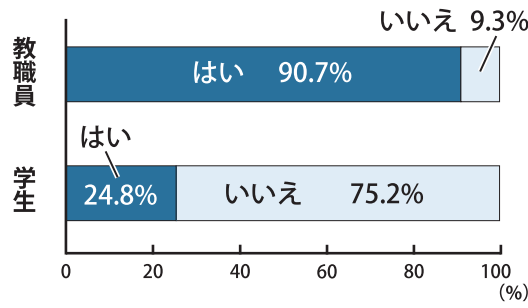
セクハラ・アンケート実施

「大学に行きたくなくなった」

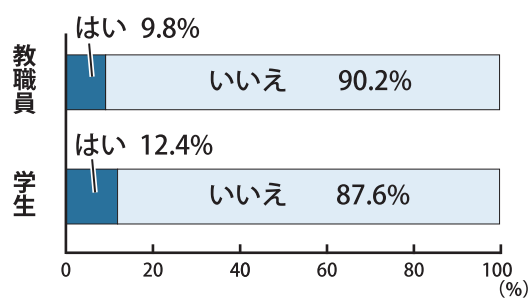
学生7割「知らない」

本紙調査 筑波大のセクハラ防止の取り組み

筑波大のセクハラ防止の取り組みを知っているか



何らかのセクハラを受けたことがあるか



世界的にセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)が問題となる中、本紙は昨年12月、セクハラに関する学内アンケートを行い、回答した教職員194人、筑波大生145人のうち教職員19人(9.8%)、学生18人(12.4%)が所属する研究室・ゼミで「何らかのセクハラを受けたことがある」と答えた。「セクハラを受けた」人のうち、学内の相談機関の利用は4人だけだった。また、学生109人(75.9%)が筑波大のセクハラ防止の取り組みを「知らない」と答えてもいる。筑波大では昨年2月、教員がセクハラで懲戒解雇されている。

(本紙取材班、6、7面に関連特集)

アンケートは、連絡先が把握できた研究室・ゼミに所属する教職員1343人と、筑波大生約1100人にメールなどで配布。教職員、学生とも約15%から回答があった。教職員の回答者の内訳は、男性148人(76.3%)、女性32人(16.5%)、その他・無回答が14人(7.2%)。学生は男性62人(42.8%)、女性80人(55.2%)、その他・無回答3人(2.1%)だった。

その結果、何らかのセクハラを受けたことがある」との回答は、教職員は女性11人、男性2人で、その他・無回答は6人だった。また、学生で受けたことがある」は、女性12人、男性3人で、その他・無回答は3人だった。

何らかのセクハラを受けたことがある」と回答した教職員にその内容を複数回答で聞くと、容姿を話題にされたり、性的な話題を聞かされるなどの「言葉によるもの」が13人で最多。次いで、「女性は昇進しなくても良い」など「就業上の不利益」が11人、お茶くみやお酌をさせられたなど「性的役割の強要」が8人、手や腰を触られたなど「不快な性的行為」が6人と続いた。また、性的行為の強要、または未遂などの「性的な暴力行為」も1人いた。

また、学生の場合は、「性的役割の強要」が10人で最多。「言葉によるもの」が9人、「交際の強要」、「不快な性的行為」が6人と続いた。また「性的な暴力行為」も1人いた。

筑波大は2005年からハラスメントへの全学的な対応を開始。16年には相談室を設置し、複数の相談員に加えカウンセラー資格を持つ職員1人を配置した。学生や教職員は、相談員とカウンセラーいずれかを選んで相談できる。

セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)は「性的言動」によって不利益を受けたり、労働環境などが害されるハラスメント(嫌がらせ)のこと。17年にハリウッド女優が有罪判決を宣告したことをきっかけに、次々と告発が広がり、世界的な問題となった。

体育施設で盗難多発

筑波大 被害額は3年間で45万円以上

筑波大学の中央体育館や武道館などの体育施設内で財布から現金が抜き取られたり、パソコンが盗まれるなど盗難被害が多発している。学生生活課などへの取材によると現金被害額は2016年1月～昨年12月末までの3年間で、45万円以上。このため体育センターは昨年10月、武道館入り口にカードキーシステムを導入している。武道館はそれ以前、日中は施錠されておらず、誰でも入場できる状態だった。

(西村大祐II社会学類1年、森賀遼太II社会学類2年)

同課によると、この3年間に筑波大体育施設で発生した盗難件数は報告されただけでも19件。うち昨年の11件(現金被害額8万8千円)が最多で、17年は3件(パソコンや剣道の防具なども盗まれている)。

一方、施設別の被害は、中央体育館が7件と最多で、武道館が6件、体育系サークル会館が3件、プールが2件、球技体育館が1件だった。これらのうち更衣室での被害が全体の約半数を占めたという。

同課によると、盗難の大半は被害に遭った学生が部やサークルの活動中に発生。施設内の鍵付きロッカーを未施錠のまま利用したため、財布などが盗まれた例もあった。



新設されたカードキーシステム(昨年12月19日、武道館で) = 西村大祐撮影

盗難事件の多発などを受けて、体育センターは、昨年10月15日、武道館入り口を学生証や職員証をかざすことで開錠する仕組みに変更。この際、入場に使った学生証や職員証の学番号、職員番号が記録されるという。同センターによると、これ以前、武道館は午前6時～午後9時の間、入り口は無施錠で、学外者の無断立ち入りや後を絶たなかったという。

同センター長の山田幸雄教授(体育系)は「カードシステムが犯罪の抑止力になることを期待している。施設利用の学生は今回の設置を機に、防犯意識を高めてほしい」と語った。

筑波大生 12年ぶり箱根

相馬「山登り」5区出走



箱根駅伝5区を力走する相馬選手(1月2日、神奈川県箱根町大平台で) = 木村誠撮影

筑波大学陸上競技部の相馬崇史選手(体專2年)が2、3日の第95回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に関東学生連合チームIIの一員として往路5区に出走した。筑波大生の箱根駅伝出場は大城将範選手(平成21年度リス工専専攻修了)以来12年ぶりの快挙。関東学生連合チームは正式な順位はつかないが、相馬選手は1時間14分45秒と区間13位相当の走りを見せた。(木村誠II社会学類2年、秋田耕平II社会学類3年、加藤優花II国際総合学類1年、森賀遼太)

昨年10月13日の箱根駅伝一位となり、本戦の出場を逃した。個人67位に入った相馬は2年連続で選出。昨年は予選会で筑波大は全体で17位だった。

右アキレス腱の故障で欠場したが今年は「山登り」と呼ばれ、全長20.8キロで高低差が8000以上ある往路5区に出走した。チームは4区と5区の間的小田原中継所(神奈川県小田原市)で相馬選手が繰り上げスタートした。上り坂が得意な相馬選手は、順位を9つ上げ、区間13位相当で走り終えた。沿道では、筑波大の旗を持ったOBらが多数応援。「序盤5時は練習の疲労が残りが、体が思うように動かなかった」と話した相馬選手は、「沿道の大きな声援が心強かった。満足いかない結果だが今の実力は出し切れた」とも語っていた。

関東学生連合チームII箱根駅伝予選会で出場権を得られなかった大学から、個人成績が優秀な選手を抜抜して構成される箱根駅伝出場チームの一つ。

繰り上げスタートの中継所で規定の時間内に前の走者が来なかった場合に次の走者を出発させること。

筑波お話し

「ファーストペンギン」。集団で行動するペンギンの群れの先頭に立ち、エサを求めて海へ最初に飛び込む一羽のことだ。転じて、前例のないことと挑戦する人を指す▼その代表例は、元サッカー日本代表の本田圭佑だと思ふ。豪州リーグで選手として活躍する傍ら、昨年8月にカンボジア代表の実質的な監督に就任。豪州とカンボジアを往復し、プレーと指導の両立に励む。現役選手でありながら代表チームを指揮するのは世界初の試みだ▼だが挑戦の道は険しい。監督就任から初勝利までに6戦を要した上、国際サッカー連盟(FIFA)が決める代表チームの順位FIFAランキングでカンボジア代表は本田の監督就任以降、166位から172位に下降した(昨年12月現在)▼それでも本田は歩みを止めない。「簡単に成功するとは思っていない」と話し、カンボジア代表の選手と1対1の面談など、綿密なコミュニケーションを図る。また、選手活動の合間を縫って代表チームの対戦相手の分析を行うなど、献身的な活動に取り組む。本田は勝利を目指し突き進む▼年が明け、筑波大学新聞の副編集長になった。今後事実を求め報道を続ける中で、挫折も生まれるだろう。それでも本田のように挑戦していきたい。本田は「挫折は成功の過程だ」と言う。自分もいつの日か「ファーストペンギン」になれるだろうか。

金栗四三を描く大河ドラマ『いだてん』 学内で特別展など開催

制作に筑波大協力

日本人初の五輪マソン選手で筑波大学の前身・東京高等師範学校出身の金栗四三を描く2019年NHK大河ドラマ『いだてん』東京オリムピック囃しの放映開始(6日)を受け、筑波大では金栗四三の特別展を開催するなどのさまざまな活動が始まっている。またオリムピック歴史研究が専門の真田久教授(体育系)などがスポーツ史の考証を担当するなど、番組には筑波大関係者が関与している。これらの活動をまとめた。(牧田宗太 社会学類2年、木村誠)



(左) ドラマの主人公・金栗四三 (右) 金栗の恩師で東京高等師範学校校長の嘉納治五郎=事業開発推進室提供

■金栗・嘉納特別展

22日から12月25日まで、筑波大体育センターや東京キャンパスなどで開催されている。体育センターで開かれている「金栗四三特別展」では金栗本人使用の足袋や直筆の書、筑波大所蔵の書籍や写真などを展示。また、筑波大体育センター前ホールで開かれている「嘉納治五郎特別展」では、嘉納の東京高等師範学校での教育活動などを展示している。開館時間は一部会場を除き、午前9時30分〜午後5時で、月曜は休館。観覧料は「金栗展」のみ300円で、他は無料。

■熊本県と連携協定

筑波大は昨年12月1日、金栗の出身地・熊本県などと、スポーツを通して地域活性化を図る連携協定を締結した。同県のほか、金栗の出生地・和木町、出身校の玉名北高等学校(当時)があった南関町、金栗が人生の半分以上を過ごした玉名市が参加。金栗の功績を

筑波大公式アプリ開発

4月以降に配信予定

筑波大学は寄付金を集めることを主な目的に、スマートフォン向け公式アプリの配信を4月以降に始める。アプリには寄付金の受付機能のほか、筑波大に関するニュースの配信機能なども備える予定だ。(田所涼 教育学類1年、木村誠)

筑波大は2023年10月の開学50周年に合わせ、昨年6月、「創基151年筑波大学50周年記念基金」を設立し、寄付を募っている。筑波大事業開発推進室によると、同基金の目標額

「掻い掘り」で庭園を改修

東京キャンパスの占春園



外来生物を捕まえる子どもたち (1月13日、東京都文京区で)

筑波大学東京キャンパス(東京都文京区)の庭園「占春園」(約1.2平方メートル)にある「落葉池」(約423平方メートル)の水を抜く「掻い掘り」が13日、筑波大などの同窓会組織、茗溪会(東京都文京区)の主催で行われた。清掃と外来生物の駆除が目的で、文京区周辺の地域活性化を目指すNPO法人などが協力。一般募集で集まった小学生約30人と、その保護者が参加した。

筑波大が所有する占春園は庭園内の荒廃が進み、昨年3月まで立ち入り禁止だった。茗溪会は17年9月

から今年6月まで、同園の改修や整備などを目的に「占春園再生プロジェクト」を行っており、今回の掻い掘りはその一環。当日、小学生は気温5〜6度のもと、午前10時から1時間半ほど池の中で活動。網やバケツを持ち泥水の中でコイやミシシッピアカミミガメなどの外来生物を探した。

参加した小学生は「コイは巨大でめぐる感じが、頭を抱え込んだら捕まえた。寒さや泥汚れは平気だった」と話した。茗溪会事務局長代理の岩田敏昭さんは「子どもたちが楽しそうだった。奇麗になった占春園を見るのが楽しみ」と話した。(後藤佳 社会学類1年、写真も12面に関連写真)

米国支援で授業開設

「アートセラピー入門」

筑波大学は米国の資金提供を受け、欧米で普及する心理療法「アートセラピー」を紹介する授業「アートセラピー入門」を、5月から村助九郎、東京高等師範学校校長でアジア人初の国際オリンピック委員会委員の嘉納治五郎を役所広司が演じる。金栗が嘉納の勧めでストックホルム五輪に出場する様子や、嘉納が東京五輪招致に奮闘する姿などが描かれる。

「いだてん」

日本が初参加した1912年のストックホルム五輪から、戦争で返上した40年の東京五輪などを経て、64年の東京五輪までのドラマ。主人公の金栗を中

の骨と判明したことを機に、その全身骨格模型などを展示する展覧会が昨年12月3日から1月31日まで筑波大学サテライトオフィス(つくば市吾妻)で開かれている。展示ではパレオパラドキシアの化石の实物と、大きな反響を巻き起こした。展示ではパレオパラドキシアの化石の实物と、その3D動画が見られる。展示世話人の上松佐知子

筑波大収蔵庫で発見

パレオパラドキシア展示会

筑波大学の古生物標本収蔵庫で60年以上保管されていた化石が、1000万年以上前に絶滅した海洋哺乳類「パレオパラドキシア」

の骨と判明したことを機に、その全身骨格模型などを展示する展覧会が昨年12月3日から1月31日まで筑波大学サテライトオフィス(つくば市吾妻)で開かれている。



パレオパラドキシアの骨の展示 (昨年12月19日、つくば市吾妻で)

の骨と判明したことを機に、その全身骨格模型などを展示する展覧会が昨年12月3日から1月31日まで筑波大学サテライトオフィス(つくば市吾妻)で開かれている。展示ではパレオパラドキシアの化石の实物と、大きな反響を巻き起こした。展示ではパレオパラドキシアの化石の实物と、その3D動画が見られる。展示世話人の上松佐知子

広告掲載欄

広告のお問い合わせは

電話 029-853-6699

メール shinbun@un.tsukuba.ac.jp



東京大学新聞

1920年の創刊以来、東京大学の「今」を発信し続ける

最新の学術動向から身近な学内トピックスまで、日々東京大学から発信される旬なニュースを週刊でお届け。通常号のほか就職、大学院、受験、資格、入試等、テーマ別の特集号も含め年間42回発行

「つくば経済新聞」

ウェブでスタート

つくば市などのニュース記事を掲載するウェブサイトを「つくば経済新聞」が昨年12月10日に始まった。同サイトは地元のイベントに

だが、この分野の専門家はいなかった。講座開設を機に、学生にアートセラピーを知ってほしいと語った。(遠子内早紀 教育学類1年)

(木村誠 森賢達太)



退職教員4人に聞く

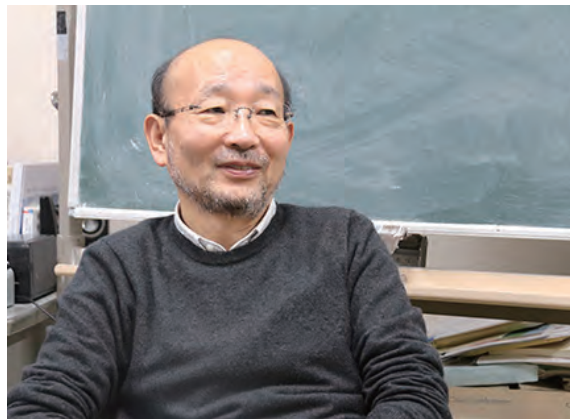
教員人生の軌跡

多種多様な専門を持つ教員がそろって筑波大学。今春も教育者として、研究者として、さまざまな経験を積んできた多くの教員が定年退職を迎える。4人の教員にその軌跡を聞いた。(小池深太郎比較文化学類、中村瑞歩日本語・日本文学文化学類、後藤佳佳、牧田宗大社会学類、竹添そら知識情報・図書館学類)

学生との議論を 楽しむ

宗教と社会との相互関係について研究する「宗教社会学」が専門。2007年から日本宗教学会の会長を務め、宗教学研究の発展に尽力してきた。

早稲田大学文学部人文科学卒業。ヨーロッパの社会や文化を学ぶ中で、宗教の影響力の強さに関心を持った。近代社会の成立に宗教が大きな役割を果たしたことを説いたマックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読み、宗教学会に強くなりきつづけられた。



山中弘 教授 (人社系・宗教社会学)

「初めて論じた『宗教とツリスム』聖なるものの変容と持続―(世界思想社)を著した。また、アニメの舞台やパワースポットなどが『聖地』として多くの人をひきつけていることに注目。『伝統的な宗教とは異なり、メディアを活用し自分たちで新たに聖地を創造する新しい宗教現象として研究している』と語る。

学生の問題意識を刺激するような授業を行うことを常に心がけてきた。「私の考え方を押し付けるのではなく、学生の考える基礎となる知識を教えることを重視してきた」と語る。また、授業では学生との議論を大切にしていた。「私の意見への同調ではなく、自分の意見を言う学生がいると、新たな発見があることができる」とほほ笑む。

恩師との出会いが 人生を変える

小さい頃から虫が大好きだった。病弱で周りの子と同じように遊べなかったため、晴れの日は自宅の庭にいて昆虫を観察し、雨の日は昆虫図鑑を読んだ。この頃から、昆虫とは一体どんな生き物なのかを考えたようになったと語る。



町田龍一郎 教授 (生環系・昆虫比較発生学)

昆虫進化の過程を探る

「22目の発生過程を明らかにした。2003年には『原始的昆虫を中心とする比較発生学』の研究で第1回日本節足動物発生学会賞を受賞した。退職後は同学会の会長を務めながら、また研究を終えていない残り10目の進化過程を調べる。『昆虫の研究者としてやり抜きたい』。学生に対しては『役に立つことばかりを追い求めるのではなく、純粋な興味を大切に研究し、学問によって自らの世界観を手につくしてほしい』と語った。

現代の聖地創造を研究

手探りの中 研究を続けた

図書館情報学の中でも、主に図書館の図書の配列に利用される分類法の研究を行ってきた。高校生の頃は社会科学系の学術書をよく読んでいた。理論的な学問分野が好きだったため、物理に興味を持ち、慶應義塾大学工学部へ進学した。

段々利用目的、研究者間で学術情報の引用方法などを研究した。大学院修了後、図書館情報学で助手として着任。図書の分類の研究を始めるきっかけは、その4年後に訪れる。当時、図書の分類に関する授業を行っていた藤川正信教授(当時の学長就任に伴い、担当授業とともに研究も引き継ぐことになった。『当時は図書の分類の研究はあまり盛んではなく、研究論文と呼べるものがほとんどなかった。最初のうちは手探りだった』と語る。

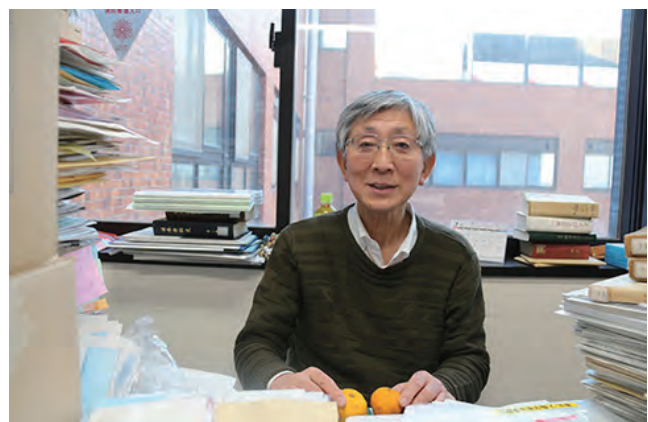


緑川信之 教授 (図情メ系・図書館情報学)

「学問はどの分野でも疑問を持つことから始まる。習ったことを丸暗記するのではなく、その中から疑問を探し、取り組んでいってほしい」とメールを送った。学生には「学問はどの分野でも疑問を持つことから始まる。習ったことを丸暗記するのではなく、その中から疑問を探し、取り組んでいってほしい」とメールを送った。

現地を訪れる 大切さを説く

海水浴場や街並みといった観光地の成立、変遷などを事例に、場所に対する人々の認識の研究を行ってきた。また、地域の食などを通じて、生活文化や人間が持つ価値観について研究した。



小口千明 教授 (人社系・歴史地理学)

感じていたかを研究。満期退職後は城西大学に9年勤めたのち、筑波大(日本語・日本文学文化学類、歴史・人類学専攻)に助教として着任した。授業では実際に現地を訪れることの大切さを強調した。年に数回は学生を全国へ連れて行き、景観からその土地の特色を読み解く学習(巡回)を実施した。研究生活の中で「人間の価値観の変化によって、場所への認識も変わる」という考えを大切にしていた。その考えを生かした研究成果の一つに埼玉県川越の観光地化がある。明治期の大火をきっかけに築かれた。『地歴高等地図―現代世界とその歴史的背景―(帝國書院)の編集にも携わった。同書は高校生に向けた地図図帳で、多くの高校で採用されている。退職後は私立大学の非常勤講師として教育活動を続ける。研究生活を振り返り『自分の好きなことが仕事になった。こんなに幸せな人生はない』とほほ笑みながら語った。

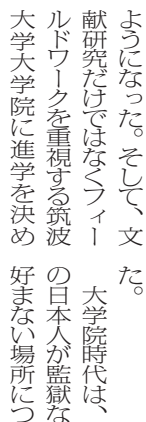
図書の分類方法を理論化

図書館・情報学専攻修士課程に進んだ。大学院では理系研究者の学術書の利用手



図書の分類方法を理論化

情報を集めるフィールドワークの重要性と楽しさを知り、地理学研究者を志すようになった。そして、文た。大学院時代は、明治時代の観光地化がある。明治期の大火をきっかけに築



退職後は私立大学の非常勤講師として教育活動を続ける。研究生活を振り返り『自分の好きなことが仕事になった。こんなに幸せな人生はない』とほほ笑みながら語った。

記者の声



森賀遼太

「通報することを心がける一方で、警察や大学には現在ある通報・相談体制の周知を求めたい。関係者によると天久保2丁目の事件で被害者はまず、友人に相談。だが、大学側(担当教員)が野放しになってしまっている。被害にあつたらすぐ通報を」

被害にあつたらすぐ通報を

連絡・相談体制の周知を

昨年、筑波大学周辺の天久保2丁目、女子学生が車の中に連れ込まれそうになったほか、平砂学生宿舎1号棟横で女子学生が胸を触られる事件があった。大学周辺の不審者問題を取材してきたが、今回、2件のうち1件は警察や大学などへの連絡・相談が遅れ、もう1件はそれが全くなかったことが分かった。警察の担当者は「相談や通報がなければ捜査はできず、通報が遅れると事件解決が困難になる」と話す。不審者による事件では被害にあつたらすぐ通報を、警察への通報は事件から約1週間後だった。一方、平砂学生宿舎の事件で被害学生は両親に連絡しただけで、警察や大学への連絡や相談は全く行っていない。私が取材しただけでも大学周

辺の不審者による事件で、警察や大学などに通報や相談をしていない事件はほかにもある。例えば同じ昨年、大学周辺で自転車に乗っていた男子学生が乗用車に付きまとわれ、事件が起きていたが、結局「その後は何事もなかった」と本人、警察には通報しなかった。だがこれでは事件が解決に向かわず、不審者が野放しになってしまっている。多くある。困ったところにかく通報してほしい」と話している。一方、警察や大学の対応にも指摘したいことがある。警察は1990年、110番通報ではなく、気軽に事件や事故などの相談ができるダイヤル「9110」の全国的な運用を開始。だが、私が取材した被害学生らにこの番号について聞くと、全員がその存在を知らなかった。

これら被害者の中には「通報しても取り合ってもらえないのか」と通報をためらう人がいる。だが警察の担当者は「事件直後にとるべき行動などを助言したり、事件現場周辺のパトロールを行うなどできることはある。被害者の中には「まさか自分がこんな目に遭うとは思わなかった」と言う。だが、自分の身に危険が及ぶ可能性は誰にでもある。普段からそれを最小限に抑える努力が求められる。筑波大学新聞副編集長・社会学類2年)

筑波時評

改正水道法

問われる民間参入の成否 法律成立の責任は有権者に

昨年12月の第197回国会で改正水道法が成立した。ここで話題になるPFI(Private Finance Initiative)とは「公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金ノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効果的かつ効率的な公共サービスの提供を図る(引用)日本PFI・PPP協会」ものをいう。民間企業に運営を委ねることを認

められる。「コンセッション方式」と呼ばれている。水道に限らず、公共事業は安全で安価なサービスを提供することを目的としている。事業の一部に民間企業が参画することで政府の財政負担が減り、民間の知恵を

辻雄一郎 准教授 (公法学)



人文社会系・准教授。筑波大学地域と気候変動の社会問題解析ラボラトリー長。カリフォルニア大学バークレー校で法学修士と法学博士を修了。2013年よの現職。

取り入れることができる。他方で、料金高騰・サービスの質の悪化・災害時の給水体制の確保・財政情報の透明性の問題を政府は抱えることになる。我が国の水道網は1960年代の高度経済成長期に整備された水道管が増えて、維持費がかさむようになった。導入の判断は

今後、水道運営のノウハウを有する企業の参入が予想される。利益を得た経験値を有する企業は海外の企業かもしれないが、水道事業の利益は地元住民に流れないかもしれない。広域連携は高齢化し、過疎化する自治体の連携を可能にする手段のひとつかもしれない。自治体は運営権を売却することで利益を得

反対金

外国人労働者の受け入れ拡大

昨年12月、出入国管理及び難民認定法が改正された。同法は4月1日に施行予定で、5年間で介護や外食など14業種で最大約34万5千人の外国人労働者を受け入れる見込みだ。政府はこれまで原則として外国人の就労目的の在留を認めておらず、大学教授など高度な専門人材に限り受け入れてきたが、今回の改正で単純労働に従事する外国人労働者が大幅に増える。筑波大学生は外国人労働者の受け入れ拡大をどう思うのか。中央図書館前などで聞いた。(西村大祐)人文社会学類1年・木村誠 同2年、池田花彦 比較文化学類2年)

【インス2年・男性】 受け入れ拡大の利点、欠点が最低賃金以下で働かざるを得ない。受け入れ拡大の理由や、拡大後のどうなるのかなど、国民全体で理解を深めなければいけないと思う。

【人文4年・男性】 受け入れ拡大の利点、欠点が最低賃金以下で働かざるを得ない。受け入れ拡大の理由や、拡大後のどうなるのかなど、国民全体で理解を深めなければいけないと思う。

【インス2年・男性】 受け入れ拡大の利点、欠点が最低賃金以下で働かざるを得ない。受け入れ拡大の理由や、拡大後のどうなるのかなど、国民全体で理解を深めなければいけないと思う。

【人文4年・男性】 受け入れ拡大の利点、欠点が最低賃金以下で働かざるを得ない。受け入れ拡大の理由や、拡大後のどうなるのかなど、国民全体で理解を深めなければいけないと思う。

【インス2年・男性】 受け入れ拡大の利点、欠点が最低賃金以下で働かざるを得ない。受け入れ拡大の理由や、拡大後のどうなるのかなど、国民全体で理解を深めなければいけないと思う。

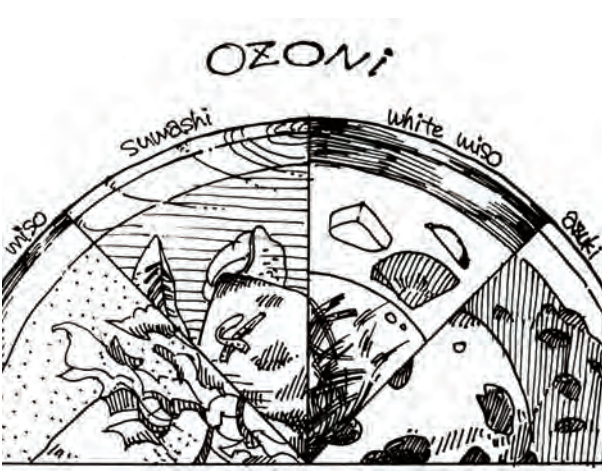
【人文4年・男性】 受け入れ拡大の利点、欠点が最低賃金以下で働かざるを得ない。受け入れ拡大の理由や、拡大後のどうなるのかなど、国民全体で理解を深めなければいけないと思う。

ばいけいと思う。 【障害2年・女性】 詳しく知らないが、今でも外国人の店員が多くなるので、見た目は何がかわるのかよく分からない。外国人労働者の待遇や治安を説明してほしい。 【人文2年・男性】 改正に賛成。日本は少子高齢化で労働人口が著しく減っており、それを補うために外国人労働者の受け入れ拡大は自然なことと思う。治安が悪化するという議論もあるが、アルバイトで外国人労働者と働いていても危険を感じたことは一切ない。コンビニでも外国人店員が増えているが、悪い印象は受けない。 【比文2年・女性】 外国人労働者を排除する理由は特段ないと思うので、賛成。日本人と共生していければ良いと思う。 【人文2年・男性】 介護業などの人手不足が深刻で、外国人労働者が必要なのは分かる。しかし、外国人労働者の待遇や治安悪化などの点で、議論が十分分かれたとは言えず、性急に改正案が可決されたと思う。今後も議論が必要だ。 【EMP1年・女性】 受け入れ拡大は良いと思う。優秀な外国人と一緒に働くことで、日本人の意識も高まるのではないかと。 【応理2年・男性】 外国人労働者に偏見を持たず、相手の文化を理解できるように受け入れ拡大に賛成。ただ、外国人と距離を置く傾向のある日本の現状を鑑みると難しいと思う。 【社会学3年・男性】 (外国人の流入による)治安悪化が懸念されているが、外国人旅行者や外国人居住者が年々増えている。一方で、犯罪は減っていない(警察庁によると、外国人による犯罪の検挙件数は2005年から16年にかけて、約7割減少)のを見る。その心配はないと思う。 【人文4年・女性】 受け入れ拡大よりも、外国人技能実習制度の改善の方が先決だ。政府には早急な対応を求めたい。 【外国人技能実習制度2年】

あなたのお雑煮は?

正月に多く食べられるお雑煮は、地域によって餅の形や具材などが異なる。全国から集まる筑波大学生は、どんなお雑煮を食べたのか。中央図書館前や春日エリアなどで聞いた。(加藤優花)国際総合学類1年、遠子内早紀)教育学類1年、竹添そら)知識情報・図書館学類2年)

【インス3年・男性II山形県出身】 粉のようなお雑煮だった。毎年、実家のお雑煮には、自分も嫌いなお餅を入れている。家で餅つきをするので、その餅をお雑煮に入れて、お雑煮を作っている。お雑煮は、お餅、人参、大根、きのこが具材として入っている。お雑煮は、お餅、人参、大根、きのこが具材として入っている。お雑煮は、お餅、人参、大根、きのこが具材として入っている。



イラスト=長手彩夏(地球進化学専攻1年)

手作りの餅を入れる。母の実家でお雑煮を作るのが恒例行事。親戚や近所にも配り、形の揃いなお雑煮をお雑煮に入れて食べる。つきたての餅で作るお雑煮は、とても美味しい。 【又創2年・女性II祖母が京都府出身】 毎年、祖母が作る白味噌味の京風お雑煮を食べる。具材は餅のみか、ほうれん草が少し入っている。正月の親戚が集まる場で振る舞われる正月料理の中で一番好きだ。 【物理1年・男性II祖母が大坂府出身】 祖母がお雑煮を作ってくれている。毎年、白味噌と赤味噌の合わせ味噌の汁に、大きな餅と大量のかつお節が入っている。具材は少ないが、餅が大きいので満腹になる。

豊かな表現で世界観歌う

混声合唱団 定期演奏会

筑波大学混声合唱団の第43回定期演奏会が昨年12月8日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。演奏会は4つの合唱曲集が披露され、美しい歌声で来場した約370人を魅了した。



合唱を披露する混声合唱団の団員ら(昨年12月8日、ノバホールで)

第一部は寺山修司作詞、信長貴富作曲「カウボーイ・ポップ」。寺山修司が書いた独特な言葉遣いの5つの詩を、信長貴富が楽しく歌える合唱作品として作曲した作品で、冒頭の狼の

遠吠えを連想させる口笛の音色とテナーの歌声が、カウボーイが活躍する西部劇の世界観を表現した。

第三部では、ドイツ語の作品「Zigeunerlieder」(日本語訳「ジプシーの歌が歌われた。ヨーロッパ各地を移動しながら暮らす「ジプシー」青年の、恋人との幸せな日々や別れを表現した詩に合わせ、時に軽やかに時に荒々しく曲調が変化する。力強い男声と悲しげな女声、ジプシーの恋を感情豊かに歌いあげた。

渡邊千谷元団長(教育3年)は、「1年間、練習を重ねてきたが、本番はあっという間に終わってしまった。一瞬一瞬に気持ちを込めて歌うことができた」と語った。(遠子内早紀 写真)

蠟型ブロンズ彫刻展 日伊の文化交流をテーマに

中村義孝教授(芸術系)が研究する特殊な鑄造法を用いたブロンズ(青銅)彫刻の展覧会が昨年11月6日から同年12月22日まで、大学会館など筑波大学内の3会場で開催され、中村教授らイタリアと日本で活躍する彫刻作家32人の約50点が展示された。

この鑄造法による彫刻は「イタリア式蠟型ブロンズ彫刻」と呼ばれ、1950年代にイタリアから日本に伝わった。従来の青銅彫刻では彫刻家は石こつや粘土で彫形を制作するだけ



稀勢の里の顔をイタリア式蠟型ブロンズ彫刻で表現した作品「力士」=中村義孝教授提供

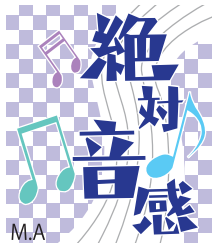
で、鑄造は鑄造家に任せていた。一方、イタリア式蠟型ブロンズ彫刻では、彫形を蠟で作ることにより、従来に比べより細かな表現が可能になる。また鑄造も彫刻家自身が行ったり、鑄造家に指示を出すこともあり、中村教授によると、彫刻家の意図を作品により強く出す事が可能になるとい

中村教授の出品作「力士」は、牛久市出身の元横綱稀勢の里の顔を題材として作られたもので、同作品はイタリアで開催された展覧会にも出品されていた。中村教授は作品について、「日伊両国の相互交流がテーマ。日本を代表する文化の一つである相撲をイタリアから伝わった鑄造法で表現したかった」と話した。

展示について、中村教授は「イタリアと日本の彫刻家の協力があってこそ成り立った展示。じっくりと作品を味わってほしい」と話した。(大森春歌 芸術専門学群1年)

原形「青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。



筑波大学吹奏楽団

筑波大学吹奏楽団の第80回定期演奏会が昨年12月7日にノバホール(つくば市吾妻)で行われた。演奏会のテーマは「世界旅行」。様々な旅を表現した全9曲で観客を楽しませた。演奏会は3部構成。第一部の最後に演奏されたのは「大いなる約束の大

地「チングス・ハン」だ。指揮者の松下虎太朗さん(日自9年)は「日本の伝統音楽とモンゴルの民謡の『出合い』を表現した」と話。冒頭、日本の雅楽を思わせるフレーズをフルートのソロが妖しげに奏でる。合間には、バストラムや拍子木といった打楽器が象徴的に鳴り響き、会場は静かな緊張感に包まれた。

その後、金管楽器が雅楽風の旋律を奏で、打楽器のドラや鈴も加わり、重厚感が増した演奏で盛り上がりは最高潮に。だが、ここで場面は一転。スネアドラム(小太鼓)が軽快なリズムを刻み、モンゴルの民謡を

模したピッコロが加わる。その旋律は、モンゴルの大草原を駆け抜ける騎馬を彷彿とさせた。ピッコロのソロが奏でたモンゴルの民謡の軽

快な旋律はさまざまな楽器に引き継がれていく。その中で、金管楽器が前半の雅楽風の旋律を再度奏でる場面がある。日本とモンゴル、国境を越えた2つの音楽が「出合い」瞬間となった。一説によると、モンゴルの民謡は日本の小唄に取り入れられたという。もしそうならば、ここは「出合い」ではなく、「再会」。確かに2つは見事に調和していた。

第二部で演奏された「Around the World in 80 Days」は、小説「80日

間世界一周」をテーマとした吹奏楽曲だ。小説は、仲間と「80日間世界一周をできないければ全財産を支払う」という賭けをしたイギリスの資産家フォックが、世界一周を遂げるまでを描く。曲は旅の始まりを表す金管楽器の華やかなファンファーレで始まり、機関車でロンドンからスエズへと移動する様子やスネアドラムやトロンボーンで表現した。その後、アラビアンナイトの世界を思わせる妖艶なフルートとクラリ

ネットが続く。合間には象の鳴き声を模した金管楽器の音色が響き渡る。またシンセサイザーによる鋭い音でアメリカ西部を表すなど、道中に立ち寄ったさまざまな国を音楽で表現した。また、訪れた国ごとに照明の色も変え、会場を盛り上げた。

最後は、旅の成功を祝して冒頭と同様のファンファーレ。筑波大学吹奏楽団による世界旅行は、大きな拍手と共に幕を閉じた。(中村瑞歩 日本語日本文化学類2年、写真も)

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

旋律と音色の変化で「世界旅行」

地「チングス・ハン」だ。指揮者の松下虎太朗さん(日自9年)は「日本の伝統音楽とモンゴルの民謡の『出合い』を表現した」と話。冒頭、日本の雅楽を思わせるフレーズをフルートのソロが妖しげに奏でる。合間には、バストラムや拍子木といった打楽器が象徴的に鳴り響き、会場は静かな緊張感に包まれた。

その後、金管楽器が雅楽風の旋律を奏で、打楽器のドラや鈴も加わり、重厚感が増した演奏で盛り上がりは最高潮に。だが、ここで場面は一転。スネアドラム(小太鼓)が軽快なリズムを刻み、モンゴルの民謡を

模したピッコロが加わる。その旋律は、モンゴルの大草原を駆け抜ける騎馬を彷彿とさせた。ピッコロのソロが奏でたモンゴルの民謡の軽

快な旋律はさまざまな楽器に引き継がれていく。その中で、金管楽器が前半の雅楽風の旋律を再度奏でる場面がある。日本とモンゴル、国境を越えた2つの音楽が「出合い」瞬間となった。一説によると、モンゴルの民謡は日本の小唄に取り入れられたという。もしそうならば、ここは「出合い」ではなく、「再会」。確かに2つは見事に調和していた。

第二部で演奏された「Around the World in 80 Days」は、小説「80日

間世界一周」をテーマとした吹奏楽曲だ。小説は、仲間と「80日間世界一周をできないければ全財産を支払う」という賭けをしたイギリスの資産家フォックが、世界一周を遂げるまでを描く。曲は旅の始まりを表す金管楽器の華やかなファンファーレで始まり、機関車でロンドンからスエズへと移動する様子やスネアドラムやトロンボーンで表現した。その後、アラビアンナイトの世界を思わせる妖艶なフルートとクラリ

ネットが続く。合間には象の鳴き声を模した金管楽器の音色が響き渡る。またシンセサイザーによる鋭い音でアメリカ西部を表すなど、道中に立ち寄ったさまざまな国を音楽で表現した。また、訪れた国ごとに照明の色も変え、会場を盛り上げた。

最後は、旅の成功を祝して冒頭と同様のファンファーレ。筑波大学吹奏楽団による世界旅行は、大きな拍手と共に幕を閉じた。(中村瑞歩 日本語日本文化学類2年、写真も)

星空コンサート開催 音楽と映像のコラボ

音楽と映像のコラボ

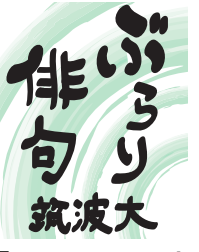
つくばエキスポセンター(つくば市吾妻)のプラネタリウム内で昨年12月15日、クラシック音楽の生演奏と、音楽に合わせた映像を楽しむ「第31回星空コンサート」が開かれた。同コンサートは2016年から定期的に開催。今回は映像として芸術専門学群の学生が卒業制作で作成したアニメーションが投影された。

会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

映像制作した高松航希さん(芸専4年)は、「使ったアニメは1秒あたり30枚の画像が必要だった。時間が少なく苦労した」と語った。コンサートの中盤では、エキスポセンターの職員がオリオン座やおおいぬ座などイベント当日につくば市内で見られる星座の解説もした。(遠子内早紀、12面に関連写真)

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。



「ランタン」ランタンに煙るが如き霜夜かな。この街の冬よランタン七千余。ランタンのあかり地を這ふ十二月。昨年12月15、16日につくば駅周辺で催されていた「ランタンアート2018」を通り過ぎた。クリスマス間近ということもあり都市の冬の風情があった。「ランタン」という言葉の響き自体が不思議で心惹かれる。オランダ語かと思ったら英語らしい。なぜオランダ語と誤解したのか省みれば「ジャック・オーランタン」に「オランダ」が隠れているのであった。こんな夕ジャレを言う人間にも風情は分かる。(文・俳句 堀下翔 文芸・言語専攻1年)

原 点 GEN-TEN

研究者になって以来私は、人間にとって言語とは何かという強い関心をもち続け、言語哲学という領域で研究を続けてきた。とりわけここ20年は、ウィットゲンシュタインという哲学者の研究に没頭してきた。彼が言語について誰よりも徹底的に考え抜いていて、その思考を辿ることに他の方

法ではできないほど深く言語について考えることができると感じたからだ。しかし彼の著作に出会ってすぐその研究を始めた。1990年代後半の彼の晩年の著作を読み始めたとき、大阪大学におられたウィットゲンシュタイン研究者の奥雅博先生(故)から、ウィットゲンシュタインの全遺稿が電子版として近々刊行されることを教わるとともに、関連資料のコピーを頂いた。既刊の彼の書物が死後弟子たちにより編集されたものであるのに対して、彼自身の遺稿に直接接する機会により、彼の本当の思考の流れを

目撃した。次に出会いのは彼の「日記」(『哲学宗教日記』講談社、2005年)とのものである。彼の死後42年たった1993年に初めて存在が明かされたこの日記を翻訳する過程で、かつて絶望感を感じた「探究」中の私的回想と思われる部分が、実は彼自身の哲学的過去に対する自省ではないかという可能性が見え、私の研究は新しい方向に向かった。その成果が昨年ようやく一冊の本(『哲学探究』)とはいかなる書物か、勁草書房、2018年)になり、私はいま思っている。同時に「探究」との古い出会いの記憶にしばし浸るこのある今日この頃だ。

鬼界 彰夫 教授 (哲学)



人文社会系・教授。ニューヨーク市立大学大学院でPh.D.取得。中央大学非常勤講師などを経て、2006年から現職。著書に、『ウィットゲンシュタインはこう考えた』(講談社)などがある。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』より「第一楽章」や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

セクハラ被害

Hello! 先端研究



家田真樹教授

国内で死因の第二位を占める心筋梗塞や心不全などの「心疾患」。現在、さまざまな細胞に変化できるiPS細胞を利用して治療が期待されているが、細胞のがん化の危険性や高額な費用など、様々な課題が残っている。そんな中、家田真樹教授(医学医療系)を中心とする研究チームは

調査方法

学生への調査は、昨年12月14-22日に、連絡先を把握できた研究室・ゼミに所属する学群4年生と筑波大学院生約1000人に、「研究室・ゼミにおけるセクハラ・ハラスメントに関するアンケート」のURLをSNSなどで送信して実施。約15%の計145人から回答を得た。設問は7-17項目。アンケートに回答した学群生の内訳は、人文・文化7人、社会・国際6人、生命環境23人、理工7人、情報5人、体育専門14人、その他4人だった。大学院生の内訳は、修士5人、博士15人、シス情報1人、生環22人、人間総合19人、工学5人、その他1人だった。学群生と大学院生あわせて無回答が5人いた。

相談に応じて3つの解決策

筑波大の対応

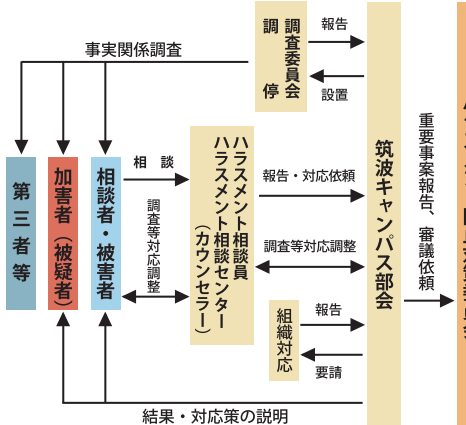
歴史

筑波大は、2005年にセクハラや教育・研究上の権力関係によって不利益を受けるアカデミック・ハラスメント防止等のためのガイメントなどへの大学側の対応を示した「ハラスメント防止等に関する規程」を制定。また、各学内組織から選ばれた教職員約30人からなる「ハラスメント防止対策委員会」を設置した。さらに07年には具体的な事例などを示した「ハラスメント防止等に関する規程」を制定。また、各学内組織から選ばれた教職員約30人からなる「ハラスメント防止対策委員会」を設置した。

相談の流れ

学生や教職員がハラスメントの相談を希望する場合は、相談センターのカウンセラーに相談する。

筑波大のハラスメント苦情相談への対応 (略図)



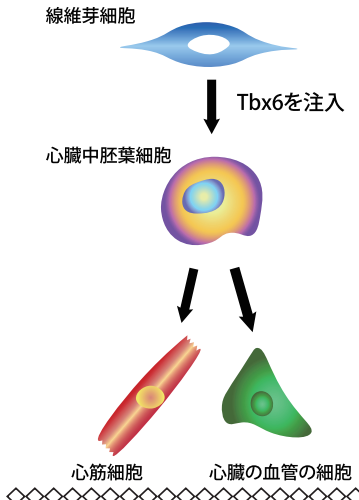
セラー資格を持つ職員や各学内組織の教職員から選ばれる「ハラスメント相談員」の中から相談相手を選べる。相談後はハラスメント防止対策委員会に置かれた委員会の教職員で構成される。筑波と東京の「キャンパス部会」が相談者の希望や相談内容、状況に応じて3つの解決策を講じる。

心臓治療を大きく前進

安全・安価な画期的治療へ

拍動させる「心筋細胞」の壊死を招く。だが心筋細胞は再生しないため心臓機能が衰え、最悪の場合死を迎えてしまう。現在、根本的な治療は心臓移植や人工心臓の装着

この発見を用いた新たな治療法では、細い管を通してTbx6を直接体内に入れるため、胸を切り開く必要がなく、手術が簡易になる。また、iPS細胞より簡単に心筋細胞を作り出せるため、治療費用が低く済むほか、iPS細胞で指摘されるがん形成などの課題



調査委員会の設置も

手紙

この原稿を書いている現在、「平成最後」という言葉をよく耳にします。私が大学に入学したのは昭和63年、「昭和最後の年度」でした。翌年に平成となり、時代の変化を体感したことを覚えています。再び新しい時代が始まる今このとき、何がどう変わっていくのか、ぜひ若い感性で見つけて下さい。

調査結果は当事者に報告される。ハラスメントと認定されると、行為者とその所属する組織の長にハラスメントの根絶と環境の改善などを求める。更に学長にも報告され、懲戒処分などの対応を開始する。

他大学の対応

千葉大学

本紙の取材に応じた千葉大学は1999年に「ハラスメント相談窓口」を設置し、学内での対応を開始した。同時に相談を受け付ける「学内相談員」も配置した。1回のハラスメント対応に関する研修を受けた教職員が務めており、現在、学内相談員は33人。

広島大学

3つ全てのキャンパスに「ハラスメント相談室」が設置されている。04年に全大学の大学で初めて、ハラスメントに関する知識を有した同相談室専任教員の横山美栄子教授は「ハラスメントに関するアンケート調査は、大学の悪印象を招きかねないため敬遠されがちだが、実態を調べることは大切。今後の対策に生かせる」と語った。

変化を恐れず柔軟に



常葉大学教授 伊東 明子 さん

私は人間学類(当時)で心理学を学び、そのままだ大学院博士課程に進みました。合計10年間(計算が若干合いませんが笑)の筑波生活でした。その後、ご縁があって故郷静岡にある常葉大学の教員として赴任し、教育学部で心理学を教えることになりました。

この原稿を書いている現在、「平成最後」という言葉をよく耳にします。私が大学に入学したのは昭和63年、「昭和最後の年度」でした。翌年に平成となり、時代の変化を体感したことを覚えています。再び新しい時代が始まる今このとき、何がどう変わっていくのか、ぜひ若い感性で見つけて下さい。

雪辱果たす勝利

全日本インカレ 9年ぶり優勝

主将・丸尾のスパイク光る



インカレで最優秀選手賞に選ばれた丸尾(中央)(昨年12月2日、青山学院大戦で) = 飯田健介撮影

【大田区総合体育館(東京都大田区)で建内亮太(人文学類2年、飯田健介(社会学類2年、12面に関連写真)大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年11月27日から12月2日に行われ、筑波大女子が9年ぶりの優勝を果たした。また、丸尾遥香(体専4年)が最優秀選手賞とブロック賞、万代真奈美(同2年)がセッター賞、鏡原叶悠(同2年)がリベロ賞を受賞した。

準々決勝までストレートで勝ち上がった筑波大。1日の準決勝では、秋季関東大学リーグ戦で敗北した松蔭大を3-1で破り、3年連続の決勝戦へと駒を進めた。2日の決勝では、前回のインカレ決勝で敗北した青山学院大と対戦。相手の粘り強い守備に苦しめられたが、主将の丸尾を中心にチーム一丸のプレーを見せ、試合を3-1で制し昨年の雪辱を果たした。

第1セット、序盤は一進一退の攻防が続いた。中盤で青山学院大のスパイクに苦しめられ、そのまま19-23まで差をつけられた。だが、丸尾が勝負強さを見せ、スパイクやブロックで6連続得点。25-23でセットを先取した。

第2セットでは、筑波大は第1セット終盤からの気迫のこもったプレーを継続。川上雛菜(同2年)や山城愛心(同2年)の鋭いスパイクで得点を重ね、このセットを25-21で奪取した。第3セット、序盤は拮抗した展開に、次第に筑波大が流れをつかみ、先に20点に到達。しかし、青山学院大のスパイクなどで4連続失点を喫し、逆転を許した。その後相手手の粘り強いプレーに対し、丸尾のブロックや鏡原のレシーブで応戦するもボールがつかわず、22-25でこのセットを落とした。

続く第4セットを取って勝利を決めた筑波大だったが、序盤で長いラリーをものにできない展開が続いた。だが、山城の強烈なスパイクで勢いに乗り、14-14の同点につけると、そのまま流れを渡さず、攻勢をかけた。筑波大がリードした状態に進んだが、試合終盤、筑波大は青山学院大の力強いサーブやスパイクを抑えきれず、20-22で逆転を許した。だが、山城がスパイクで流れを取り戻し、第1セット終盤から好調を維持していた丸尾もブロックやスパイクで得点。25-23で接戦を制し、筑波大が悲願の優勝を決めた。

主将の丸尾は「1点ずつ積み重ねることを意識して戦った。優勝できてうれしいうれしさをあらわにした。中西康己監督(体育系・准教授)は「青山学院大は強いスパイクを捨ててくるので、粘り強くつなぐプレーを意識した。優勝はチーム全員の努力の結晶だ」と選手たちを勇らせた。

第24回全日本ラート競技選手権が昨年12月15、16日につくばカピオ(つくば市竹園)で行われた。男子総合では高橋靖彦(平成24年度体育専攻修了)が、女子総合では松浦佑希(体科後期2年)がそれぞれ優勝を果した。高橋は大会7連覇を達成し、松浦は大会2連覇中の堀口文(体育系・)

特任助教)を抑え、3年ぶりの優勝に輝いた。松浦は得意の跳躍で難度の高い「後方宙返り2回ひねり」を成功させ、2位の堀口に1・15点と大きく差をつけ1位となった。松浦は「後方宙返り2回ひねり」を成功させたい一心で練習していたのでうれし。周囲の支えあっての結果。感謝の気持ちでいっぱいだと話した。(鈴木瑞穂(人文学類3年)



相手選手を振り切る犬飼(左)(昨年12月17日、駒澤大戦で)

2年連続ベスト8敗退 無冠でシーズン終える

全日本大学選手権

【柏の葉公園総合競技場(千葉県柏市)で飯田健介(社会学類2年、写真も)大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月12日-22日に行われた。筑波大は17日の準々決勝で駒澤大と対戦し、1-2で敗れ、2年連続のベスト8に終わった。

筑波大は15日の2回戦で仙台大と対戦した。東北大学リーグ優勝校に対し、三笠(体専3年)らが躍動。前半だけで3点を奪うなど圧倒的な攻撃力を見せ、4-1で勝利した。

準々決勝の相手は関東大学リーグ最終戦で惜敗した駒澤大。競り合いに強く、縦に鋭い攻撃を仕掛ける相手に対応できず、1-2で敗れた。試合は前半から激しい攻防が続いたが、互いにチャンスを生かし切れない展開が続く。前半終了間際、ボールを受けた会津雄生(同4年)が中央に折り返し、三笠が合わせたが、ポストに直撃。先制とはならなかった。

後半も拮抗する中、犬飼翔洋(同3年)が山原伶音(同1年)からのクロスを受けてシュートを放ち、ネットを揺らしたと思われかしてほしい」と話した。

Jリーグクラブに入団が内定した筑波大学蹴球部に所属する5選手の合同記者会見が、昨年12月26日に筑波大本部棟で行われた。プロ入りか内定したのには西澤健太(体専4年)は「清水エスパルス、鈴木大誠(同4年)、鈴木徳真(同4年)はJ2徳島ヴォルティス、会津雄生(同4年)はJ2FC岐阜、小笠原佑祐(同4年)はJ2来季J3) ロアッソ熊本の5選手。会見では病欠した小笠原以外の4選手が新チームでの活躍を誓った。

西澤はユース時代に在籍した清水へ復帰。清水ではユース出身者が大学を経由してクラブに加入するのは初となる。西澤は「必ず清水に戻ると決意していたのでうれしい。クラブの期待にこたえたい」と話した。小井土正亮監督(体育系・助教)は「関東大学リーグ戦や全日本大学選手権(インカレ)での優勝、天皇杯での16強入りなど、筑波大の新たな歴史を築いてくれて感謝している。プロ入り後の成長にも期待している」と5選手を激励した。(飯田健介)

決勝、延長戦までもつれたが、延長9秒で一本を奪取。準決勝では開始約1分で相手に技ありで先制されたものの、直後に技ありを奪い返した。激しい攻防の中、2分44秒で再び技ありを奪い、合わせ技一本で決勝進出を決めた。決勝ではラビナゴフ(ロシア)と対戦。長い攻防の中で、中盤に相手に指導が与えられた後、なかなか攻めきれない展開が続いた。だが残り32秒に横車で技ありを奪い、そのまま優勢勝ちで優勝に輝いた。(池田花於里(比較文化学類2年)

男子81kg級佐々木優勝が延長9秒で一本を奪取。準決勝では開始約1分で相手に技ありで先制されたものの、直後に技ありを奪い返した。激しい攻防の中、2分44秒で再び技ありを奪い、合わせ技一本で決勝進出を決めた。決勝ではラビナゴフ(ロシア)と対戦。長い攻防の中で、中盤に相手に指導が与えられた後、なかなか攻めきれない展開が続いた。だが残り32秒に横車で技ありを奪い、そのまま優勢勝ちで優勝に輝いた。(池田花於里(比較文化学類2年)

第24回全日本ラート競技選手権が昨年12月15、16日につくばカピオ(つくば市竹園)で行われた。男子総合では高橋靖彦(平成24年度体育専攻修了)が、女子総合では松浦佑希(体科後期2年)がそれぞれ優勝を果した。高橋は大会7連覇を達成し、松浦は大会2連覇中の堀口文(体育系・)

特任助教)を抑え、3年ぶりの優勝に輝いた。松浦は得意の跳躍で難度の高い「後方宙返り2回ひねり」を成功させ、2位の堀口に1・15点と大きく差をつけ1位となった。松浦は「後方宙返り2回ひねり」を成功させたい一心で練習していたのでうれし。周囲の支えあっての結果。感謝の気持ちでいっぱいだと話した。(鈴木瑞穂(人文学類3年)

広告掲載欄

広告のお問い合わせは

電話 029-853-6699

メール shinbun@un.tsukuba.ac.jp

つくば市 リサイクルセンター 4月稼働 プラごみ分別収集に



4月の稼働開始に向け、工事が進むリサイクルセンター(1月24日、つくば市水守で)

つくば市は4月1日から、新しいごみ処理施設「リサイクルセンター」(同市水守)の稼働に伴い、新たにプラスチック製容器包装(プラごみ)の分別収集を始める。収集は月2回で、家庭から出るごみが対象。同市はこれまで、プラごみを「燃やせるごみ」として収集してきたが、分別収集でプラごみをリサイクルし、燃やせるごみを減量させたい考え。プラマーク表示のあるものが対象だが、同市の担当者は「分別に迷ったら、従来どおり燃やせるごみとして出していい」とも話している。

同施設はつくば市が約40億円をかけ建設。粗大ごみに収集するプラごみは同施設で圧縮後、樹脂製品の原料などとして再利用されやびん、ペットボトルなどの資源ごみを処理する。新設の施設には市民が利用できる会議室や談話室を設けるほか、収集した粗大ごみのうち、直して使用できる家具などを修繕、市民に提供する「家具類等再生工房」を設ける。

新たに収集の対象となるプラごみは、プラスチック製のレジ袋やビニール製容器、包装が対象だが、汚れていたりプラマーク表示のないものは対象外となる。

筑波大学施設部によると、大学内で排出されるごみは「事業系ごみ」のため、

(木村誠、写真も)

「クリスマスお茶会」

留学生らが茶道体験

留学生に茶道を体験してもらおうと、「クリスマスお茶会」が昨年12月10日、グロバルヴィレッジ内の大和リースコミュニティセンターで開かれ、留学生などが参加した。

会場ではまず、ドイツ出身の留学生が母国のクリスマス文化を紹介。イブ約4

週間前から始まる「アドヴェント」というクリスマスの準備期間の様子や、クリスマス当日の過ごし方などが写真やビデオで紹介された。続いてのお茶会では、筑波大学茶道部和敬清寂社の部員らが茶道の歴史や作法などを解説。参加者は作法を教わりながら、抹茶と和菓子を味わった。参加した留学生は「抹茶は苦かったが、和菓子の甘みが苦さを和らかくして美味しかった」と話していた。



毛塚航大

イベントを企画した生命環境エリア支援室の藤田和子さんは「日本人の学生だけでなく、多くの留学生が参加して文化交流ができ、やりがいがあった。今後も学生とともにお茶会を続けたい」と語った。(後其志、12面に関連写真)

サテ室 マナー悪化

利用者「無法地帯と化している」

筑波大学内で、学生がパソコンや印刷機などを使う「全学計算機システムサテライト(サテ室)約20カ所の一部で、端末や液晶ディスプレイ用のコンセントが私的に利用され、抜かれたままになっている事例が頻発し、パソコンの自動更新などに支障をきたしていることが分かった。コンセントの私的利用は過去、利用者の私物のケーブルからほやがでて以来禁止されている。関係者によるとこのほかにも飲食や私物の放置など、禁止行為が多発している。サテ室の利用状況を調べた。

(竹添ぞら 知識情報・図書館学類2年)



全学計算機サテライト(1月18日、第二エリアで) = 遠子内早紀撮影

春日サテライト

サテ室の端末などを管理する学術情報メディアセンターによると、電源プラグ(プラグ)が抜かれる問題が特に多いのは春日サテライト(春日エリア)の7C102、103号室。担当者によると、プラグ抜き

のほか、引き下ろされたディスプレイ下部にキーボードが接触し、キーが押し下

った状態で放置される事例が多発している。これは、主に私用パソコンを利用後、プラグを抜きっぱなしにして、キーボードを動かしたままにすることが原因だ。

同センターによると、これまで「プラグを抜かない」などの張り紙をしたが改善されなかった。このため昨年11月19日、同サテ室を授業などで主に利用する知識情報・図書館学類が、学生にメールを送り注意喚起を行った。

同センターの中井央准教授(図情学系)は「共用の施設であることを自覚して利用してほしい。違反行為が続くようであれば最悪

の場合、(サテ室に設置された)防犯カメラの映像や端末の使用履歴から個人を特定し、個別に対応する必要性も出てくる」と話している。

飲食・ごみ放置

各サテ室は食べこぼしによる端末などの故障防止のため、室内での飲食が禁止されている。だが全サテ室の担当者に電話取材したところ、サテ室19カ所で日常的に飲食の事例が報告されていた。

特に3Kサテライト(第三エリア)ではミスプリント用のごみ箱に飲食物のごみが捨てられていたり、ガムを机に貼り付けているなどの悪質行為が相次ぎ、2年前に室内の全ディスプレイに注意書きを貼った。清掃アルバイトの学生や警備員が

飲食などを注意すると「やっているのは」自分だ

と話している。

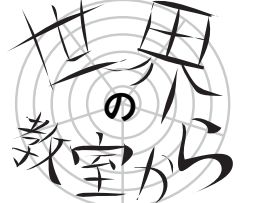
私物の放置

長期休業中、サテ室内に私物を放置する学生が毎年いる。

医学サテライト(医学エリア)では、忘れ物などは支援室で一括して保管していたが、件数が多くなり

サテ室内での拾得物は、内部にアースを設け、保管している。ある学生は「夏休み中に教科書を数冊置いて帰ったことがある。休み期間であれば授業もなく、利用者も少ないので問題ない

だろう」と話した。



ポルドー・モンテニュー大学 (フランス)

毛塚航大



フランス、と聞けば皆さんは何を思い浮かべるだろうか? 美食の国、芸術の国、FIFAワールドカップ優勝国……だが残念ながら僕が皆さんにお話しするのはそのどれも「観光」ではない。

2016年に過去最高となる観光客数2400万人を達成し浮かれる日本に対しフランスはその数8400万

人、実に3.5倍である。長きにわたり観光客数世界1位の座に君臨するフランス。僕はそんなこの世界で一番魅力的だといつも過言ではない国にまったくもって不慣れながら日本一魅力がないとされる県、茨城県からやってきた。僕は留学をするからといって別に日本が嫌いというわけではなく、むしろ大好きだ。だからこそ知りたい。フランスの何がそこまで魅力的なのか? ということを。あわよくば大好きな地元、茨城県の魅力向上に生かせるを信じて。

さて、そんなこんなでフランスに来てみた僕がまず驚いたのはなによりその「古さ」だった。僕がいるのはフランスでも有数の大都市ポルドーという路面電車が走る都会なのだが、中心街に行

けば正直コンクリートよりも古き良き石造りの建物のほうが目につく。田舎ならまだわかるが大都市でこれである。古い景観を大事にしている、それだけで個人的にはかなりの魅力ではある。が待ってほしい。ただ古いだけで天下を取られてはたまったもんじゃありません。肉眼でそれらに古き良き景観の残る建物や地区なら日本にだってある。と、思っていた僕がその考えは打ち砕かれる。

別な仏の都市・アヴィニオン、と聞けば受験戦争にもみにもまれた筑波大学生諸君は教皇庁がすぐ思い浮かぶだろう。そこに入るとまず電子パッドを渡される。この教皇庁、肉眼で見るとただの石でできた部屋があるばかりなのだが、その機器をかざしてみるとなん

と昔に染えていたその姿を画面に映し出すのである。なんとこの魅せ方をしてくれるのだろう。あえてすべてを修復し、過去の形に戻すのではなく、新しい技術であえて「今」のいさかみすばらしい姿を残しつつ我々に「過去」の姿を見せてくれるのだ。肉眼では擦り切れてもはや見えない壁面も画面ではその続きを拝むことができるし、それをやめて己の脳で「いや、あそこは実はもっと違う絵なのかもしれない」と補充しつつ楽しむことも可能だ。

話を景観の話に戻すが、石造りの家とて中身まで昔のままということはない。その中はしっかりと今を生きる人々の生活空間である。これらのことを知ったとき、僕は理解した。フランスは

「古いものの残し方」と「新しいものの使い方」が上手な国なのだ。日本はどうだろうか。全てがそうというわけではないが、大阪城などは中に入ればほぼ近代的なコンクリートの建物で

がっかりした、なんて声は山ほど聞く。逆に奈良はどろだ、なにも東大寺だけというわけがないだろう、古すぎず、古すぎないがなにかやたらと寺院がいくつも眠っているのではないかと。要は魅せ方の問題なのだろう。古いものを大事にしつつ、新しいものをそれに合わせて使うフランス人、そしてそれらがなす街の雰囲気はつい新しいものに飛びつきがちで古いものも残すというより放って、あるいは捨ててしまいがちな日本よりも、言いようもなく「魅力的」だ。(比較文化学類3年写真は本人提供)

留学生と日本人学生交流 ドイツ風クリスマス会開催

ドイツ風のクリスマス会を開催するイベント「ドイツ

風クリスマス会」が昨年12月10日、芸術学系棟北の「ミューズガーデン」で開催された。新保奈穂美助教(生環系)らが主催し、留学生や日本人学生の交流を目的としたもので、今回で2回目。

留学生ら約20人が訪れた会場では、温かいリンゴジュースにシモンなどのスパイスを加え、薄く切ったオレンジを浮かべたドイツの家庭料理「キンダーアッシュ」が振舞われた。ミューズガーデンは芸術専門学群の実習庭園として使われていたが、2016年に新保助教と雨宮護准教授(シス情系)が、さまざま

筑波大学 出版会 近刊案内

「蟲愛づる人」たちによる、昆虫愛溢れる約60編の気楽な昆虫話。20人の研究者たちが、それぞれの視点から昆虫について熱く語ります。

そんなよその名だたる図鑑には載っていない「へえ、そうなんだ」と思わずつぶやく小話の数々。登場する虫も「ミ、ハサミムン、イシノミなど……」ってこんなにマニアックで大丈夫? 本書だけの書き下ろし特典として、生涯を昆虫に捧げた教授による、昆虫のドラマチックな進化のストーリーも収録! 楽しめる「昆虫ってなに?」かがわかる本。「菅平生き物通信69号」平成31年1月14日発行より

A5判並製、約156頁。3月6日啓蒙の日に刊行。1950円十税。

虫愛づる人の蟲がたり

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 編

生命環境系教授 町田 龍一郎 監修

菅平生き物通信69号(平成31年1月14日発行)より

Who's Who?

第13代つくば観光大使に就任

山崎 麻亜紗 さん (社学2年)



振り袖を着てつくば市のPR活動を行う山崎さん=本人提供

イベントやメディアを通してつくば市をPRする「つくば観光大使」の13代目に、昨年9月就任した。大学では放送サークル「THK筑波放送協会」に所属し、市のケーブルテレビ出演。そこで鍛えた流ちょうで明るい話しぶりを生かし、全国放送のラジオやイベントなどにつくば市の魅力をPRしている。大使としての仕事は多岐にわたる。つくば市などが主催する市の特産物をPRするイベントなどで挨拶を行ったり、来場客にパンフレットを配ることもある。モデルとして地域情報誌

の撮影をすることもある。普段の学生生活に加えて、週末に大使の活動が入る時は多忙だが、楽しみながらこなしている。

魅力は「伝える」大使の活動の原点は、高校生時代の留学にある。中学生の時にアメリカや中国からの帰国子女の友人と交流した。海外に興味を持ち、高校生の時にニュージーランドへ3年間留学。異国の地で日本の文化を紹介する機会があり、文化を伝えることに興味を抱いた。

千葉県出身。つくば市に来たからは、「THK筑波放送協会」に入り、その友人と市内を巡った。そこで知ったのはラーメンの味。つくば観光コンベンション協会によると、市内には約100軒のラーメン専門店があるという。スープや麺の種類が豊富だった。以前はラーメンを食べることは少なかったが、つくば市で初めて食べた鶏白湯のラーメンなどに魅了された。

市内を巡り知った魅力 SNSなどで発信

これ以外にもつくば市にはさまざまな魅力があった。筑波山に初めて登った時は、日没後に山頂からの夜景を堪能。登山の楽しさも感じた。

つくば市の魅力に次第に惹きこまれる中、ある日ショッピングモールを歩いていたところ、つくば観光大使の募集ポスターを発見。市の魅力を多くの人に発信したいと思い、応募を決めた。

書類選考と面接を経て、ほかの2人の女性と共に大使に就任。大使の任期は2年で、前年から務める3人と合わせて6人で活動を開始した。

大使になって以降、特産物や自然の美しさなど市の魅力を再確認する機会が増え、「もっと多くの人につくば市を訪れてほしい」という思いが強まった。市の魅力を更に発信するために、大使就任時から、写真や動画を投稿するSNS「インスタグラム」を駆使。市内で評判の力

フェの写真や、大使として参加したイベントの写真などを投稿している。投稿に寄せられるコメントが活動の原動力になっている。

昨年11月の「第38回つくばマラソン」では、走路近くから声援を送る役目を担い、そこから撮影した写真を投稿した。「特別な景色」を、多くの人と共有することが大使のやりがいの一つだ。

今後は茨城県の観光地やグルメなどの知識を問う「いばらき観光マイスター認定試験」の受験を通じて、つくば市や茨城県を更に知りたいという。

◆「影響力のある人になりたい」活動を機に、多くの人につくば市を訪れてもらうことを目指す。SNSをはじめ、さまざまな方法を開拓しながら、つくば市の魅力を伝えていく。

(國井俊介「社会学類1年」)

占春園再生プロジェクト



池の水を抜いて捕獲した魚を見る参加者(1月13日、東京都文京区) = 越智小夏撮影

2面へ

学内総合

星空コンサート



筑波大生が制作した映像を背景に演奏する奏者(昨年12月15日、つくばエキスポセンター) = 村上史明助教授提供

5面へ

学芸

全日本インカレ



ブロックで相手の攻撃を防ぐ丸尾(右)と万代(昨年12月2日、大田区総合体育館) = 飯田健介撮影

8面へ

スポーツ

クリスマスお茶会



茶道の作法を学ぶ留学生(昨年12月10日、グローバルヴィレッジ) = 修其志撮影

10面へ

学生生活

編集後記

と同じことが起きてもおかしくない状況だといえます。地域に密着した地域紙の役割の大切さを実感しました。今号では、筑波大学でのセクハラについてアンケート調査し、その結果を報じました(1、6、7面)。また、筑波大学内の体育施設で現金などの盗難が続く(1面)や、つくば市関連では、新たなごみの分別収集(10面)、また、自転車の盗難の被害(11面)などを報じました。3年生が引退し、2年生主体の編集部になりました。今後とも本紙は地域紙の役割を果たすことも目指し、報道を続けます。(編集長 木村誠「人文学類2年」)

編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会
 △委員長 土井隆義(人文学部)
 △副委員長 土子昇(学生部) 学生支援業務推進担当課長
 △編集委員 菅谷純子(生命環境系) 教授 果樹園芸学、竹中佳彦(人文学部) 教授 政治学

編集後記

■筑波大学新聞編集部
 △編集代表 福原直樹(筑波大学) 教授 ジャーナリズム論
 △編集長 木村誠(人文学類2年)
 △副編集長 飯田健介(社会学類2年)、森寛太(同2年) ほか編集部員17人

次号は

4月8日(月)

発行予定です

発行 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版